

東北生産性本部

# 東日本大震災・復興支援シンポジウム

## 166名参加、盛会裡に開催



10月14日（金）13時から17時まで、仙台市内の江陽グランドホテルに於いて、166名の参加者が集い、東日本大震災・復興支援シンポジウムが盛会裡に開催された。

今回のシンポジウムは、3月11日の震災後、地域と共にある生産性本部として何ができるか、自問自答をしていたころ、日本生産性本部を始めとして全国の生産性本部から物心両面の支援を頂いた。

それをベースに、微力ながら震災復興に少しでも貢献できるよう、震災復興支援事業を計画し、5月の特別講演、6月の仙台シンポジウム、7月の労使セミナー・イン・福島に続くものであり、今回のシンポジウムは復興支援事業の集大成であった。

全国生産性機関8本部の主催・後援で開催、『地域復興・原子力防災・心のケア』をテーマに専門家の皆さまから基調講演を頂き、参加者は、『いまこそ、東北力で創造的な復興を』誓い合い、シンポジウムを終了した。



地域復興

『復元力のある街づくりと  
国づくり～災害復興から事  
前復興への二元復興論～』

明治大学大学院政治経済  
研究科・危機管理研究センタ  
ー特任教授 中林一樹 氏

原子力防災・安全対策  
『東日本大震災時における女  
川原子力発電所の状況と防  
災・安全対策』

東北電力株式会社原子力部  
部長 大谷順一 氏



心のケア

『震災ストレスと心のケア』

日本精神衛生学会理事長、  
明星大学教授・大学院人文学  
研究科長 高塚雄介 氏



第一義 ～7ヵ月過ぎた大震災～

早いもので、大震災から7ヵ月が経過した。今月10月段階で、死者1万5823人、行方不明者3884人、避難者7万1578人、震災の大きさを改めて感じ、被災状況を聞く度に胸が痛む。そういえば、3月11日の震災の日、夕方から震が振り、寒い日であった。東北地方は11月中旬頃から3月中旬頃まで、年間の3分の1は厳しい冬の季節を迎える。心身ともに温まる復興政策が求められる。今回の震災で親を亡くした子ども達は、岩手・宮城・福島で1529名に上る。シンポジウムの参加費と会場での募金は19万5千円となった。皆さまの浄財を、子どもたちの育英資金に役立てたい。(記S・S)